

数歩先行く障害福祉

違うっておもしろい。
障害への向き合い方を考える

9/21 (水)

18:30 - 21:00

第1回

「見えない」ことは 欠落ではない

～新しい身体論を知る～

障害について、福祉とはまた異なる視点からアプローチする研究が進んでいます。研究から生まれた「新しい身体論」からは、共生社会創出のためのヒントを見出すことができます。

障害者と家族の地域生活支援プロジェクト 2016 のスタートアップは、障害のある人の見ている世界を眺めることができる特別なプログラムです。差別解消や合理的配慮など「同じ」を目指す動きも重要ですが、それだけでは見えてこない「違うことの面白さ」に目を向けてみませんか。

東京工業大学

リベラルアーツ研究教育院 准教授

伊藤 亜紗氏 Asa Ito

対象 このテーマに関心のある方ならどなたでも

(障害福祉現場などの職員、教員、学生、保護者、当事者の方など)

※手話通訳等必要なサポートについては申込時にお知らせ下さい。

会場 Mass×Mass関内フューチャーセンター

定員 50名 (先着順)

参加費 各回 (一般) 2,500円 (税込)
(学生) 1,000円 (税込)

共催 公益財団法人 横浜 YMCA

(公財) 日本社会福祉弘済会 社会福祉助成事業



お問合せ・お申込み NPO法人 よこはま地域福祉研究センター

お名前 (ふりがな)、所属、電話番号、メールアドレスを明記の上、下記までお申込み下さい。

web http://yresearch-center.jp/shogai2016_1/

Eメール top@yresearch-center.jp

お電話 045-228-9117 (受付時間 月～金 10:00～17:00)

FAX 045-228-9118

特定非営利活動法人
よこはま
地域福祉
研究センター
Yokohama Community development Research center



撮影：御厨慎一郎 写真提供：森美術館

視覚に障害がある人との鑑賞ツアーの様子。
「見えない人がいることで、見えてくること」がわかってきました。

講演>

- ・見えない世界を見る方法
- ・障害者は身近にいる「自分と異なる体を持った存在」
- ・「自分にとっての当たり前」から離れるための、体験プログラムなど



伊藤 亜紗 プロフィール

1979年東京都生まれ。東京工業大学リベラルアーツ研究教育院准教授。専門は美学、現代アート。もともと生物学者を目指していたが、大学三年次より文転。2010年に東京大学大学院人文社会系研究科博士課程を単位取得のうえ退学。同年、博士号を取得（文学）。研究のかたわらアート作品の制作にもたずさわる。主な著作に『目の見えない人は世界をどう見ているのか』（光文社）、『目の見えないアスリートの身体論』（潮出版、近日常）、『ヴァレリーの芸術哲学、あるいは身体の解剖』（水声社）など。参加作品に小林耕平《タ・イ・ム・マ・シ・ン》（国立近代美術館）など

<http://asaito.com/>

予告

■第2回 スポーツでかなえる共生社会 ～テクノロジーの進化を背景に～



講師：一般社団法人こみゅスポ研究所所長 早稲田大学重点領域研究機構 塩田 琴美氏

日程：10月13日（木） 18：30～21：00

会場：横浜中央YMCA（関内）9Fチャペル（神奈川県横浜市中区常盤町1-7 JR・市営地下鉄関内駅徒歩3分）

2020年の東京オリンピック、パラリンピックに向け本格的なスタートラインに立った今、障害者スポーツへの注目が高まっています。障害者の身体機能の研究に基づき、アスリートのポテンシャルを最大に発揮させるテクノロジーは、今後4年間でどこまで進化するのでしょうか。一方で、ライフスタイルの一部としてのスポーツの価値も見直されています。医学的、社会的な視点から、障害者にとってのスポーツの意義を知り、誰もが参加可能な生涯にわたってのスポーツ環境づくりの必要性と展望について考えます。

■第3回 誰もが「働く」ことが当たり前の社会へ ～障害の限界に挑む～



講師：文京学院大学 教授 松為 信雄氏

はらから福祉会 理事長 武田 元氏

日程：10月26日（水） 18：30～21：00

会場：さくらワークス関内（横浜市中区相生町3-61 泰生ビル2F JR関内駅より徒歩5分、みなとみらい線馬車道駅より徒歩5分）



障害がある人は新しい発想や感覚を持った価値のある存在だと認めるだけでは、社会的な自立にはつながりません。「人は働いてこそ、社会的に承認され、自己実現にもつながる」「障害者にも就労から雇用への転換、経済的自立が必要」との考え方にに基づき、どうすれば当たり前に関わることができるのか。障害者就労研究の第一人者、月額工賃7万円実現に迫る現場のトップランナーとともにその答えを探ります。